

I 運動部活動の意義

1 学習指導要領における部活動

昭和 22 年に新学制の規定がなされ、学習指導要領一般編（試案）が出された。この中に「自由研究」が設けられ、その内容として「学年の区別を離れた児童・生徒のクラブ組織による活動」すなわちクラブ活動が初めて教育課程の中に示された。昭和 26 年の改訂では「全生徒が参加して、自発的な活動をする」「正規の教科と並んで重要な役割を果たす」特別教育活動の領域として位置づけられた。昭和 33・35 年の改訂においても同様の位置付けがされた。

昭和 43 年には、教育課程内の教育活動としてのクラブ活動と課外に行われる希望参加の部活動とが区別された。しかし、必修クラブでは施設や設備が不十分で時間も短く、生徒の活動欲求を満たすには問題が多かった。一方部活動では、活動時の事故災害の補償や責任をめぐる問題がしばしば現れ、指導する教師の情熱を失わせることにもなった。このような時期に、運動部活動の社全体育への移行が叫ばれたが、指導者、施設など受け皿の乏しい日本の現状では困難な点が多く、結局は伝統的に行われてきた学校での生徒と教師が組織する部活動として発展せざるを得なくなった。

昭和 52・53 年の改訂になると、部活動を再び学校教育活動として位置づけることとなり、平成元年の改訂では、「部活動に参加する生徒については、当該部活動への参加によりクラブ活動を履修した場合と同様の成果があると認められるときは、部活動の参加をもってクラブ活動の一部又は全部の履修にかえることができる」と示され、条件付ではあるが、教育課程内のクラブ活動に代替を認めた。

今回の指導要領の改訂では、総則－4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項－2 の(13)に「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること。」と学校教育における部活動の位置づけが明確に示された。

このように運動部活動は、戦後学校教育下でスタートし、一旦は社会体育への移行が試みられたものの、再び学校教育活動として意義が認められ今日に至っている。

2 運動部活動が果たしてきた役割

運動部活動は学校教育活動の一環として、生徒の心身の健全な発達に多大な貢献をしてきた。

第一に、日常の活動を通して体力や運動能力の向上、個性の伸長を図ると同時に、健康の保持増進、自己の身体や健康に関する安全、衛生、自主管理などの知識・理解を深め、その後の生活に役立っている。さらに、学級や学年、男女の枠を越えた協力・共同活動は、集団生活の重要性を学び、他者の理解や自己の存在意義を見つめ直す機会となっている。特に、希薄な人間関係や思いやりの欠如、受験戦争の過熱化、社会の情報化の進行による人間疎外等々、今日の社会状況のなかで、部活動のもつ教育的機能に期待を寄せる声も多い。

第二に、これらの活動経験は、生徒一人一人の学校生活をよりあいのある豊かなものにしてきているが、単に個人の資質向上に役立っているばかりでなく、生徒の相互理解や教職員との人間関係の深化、学校の活性化などにも生かされている。心の悩みなど、親や担任にできない相談がチームメイトや顧問にならできるという生徒も多い。また、体育的行事における運動部員のリーダーシップの発揮は、多くの生徒がスポーツやゲームの楽しさを味わうなど、学校における生涯スポーツの振興にも貢献している。学校によっては、近隣中・高等学校や地域との交流・連携を密に図り、地域に根ざした活動を展開している例も少なくない。

第三に、運動部活動が日本の競技スポーツの発展に果たしてきた役割は極めて大きい。顧問の熱心な指導や、放課後の継続的な活動、休日の対外試合等の積み重ねによって向上した競技力は、各都道府県はもとより日本の競技スポーツ基盤を支えてきた。近年は「即戦力」として日本や世界の檜舞台に立つトップアスリートも出てきている。



※ スポーツ・マテリアル=用具や運動の行い方、スポーツに関する技術・記録向上のための手立て

3 運動部活動の教育的意義

運動部活動は、学校教育活動の一環として、スポーツに興味と関心を持つ児童生徒が、教員などの指導の下に、自発的・自主的にスポーツを行うものであり、より高い水準の技能や記録に挑戦する中でスポーツの楽しさや喜びを味わい、学校生活に豊かさをもたらす意義を有している。

また、運動部活動は、体育の授業で得た興味・関心、技能などを発展・充実させるとともに、生涯にわたりスポーツに親しむ能力や態度を育て、併せて、体力の向上や健康の増進を図るものです。さらに、学級や学年を離れて生徒が活動を組織し展開することにより、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成し、仲間や教員(顧問)と密接にふれあう場としても大きな意義を有している。